

【ご注文承ります】

敦煌石窟全集 2

莫高窟第256、257、259窟考古報告(全3冊)

敦煌研究院 編／文物出版社／2024年1月／精装／ISBN 9787501082049

税込 114,840円(498113)

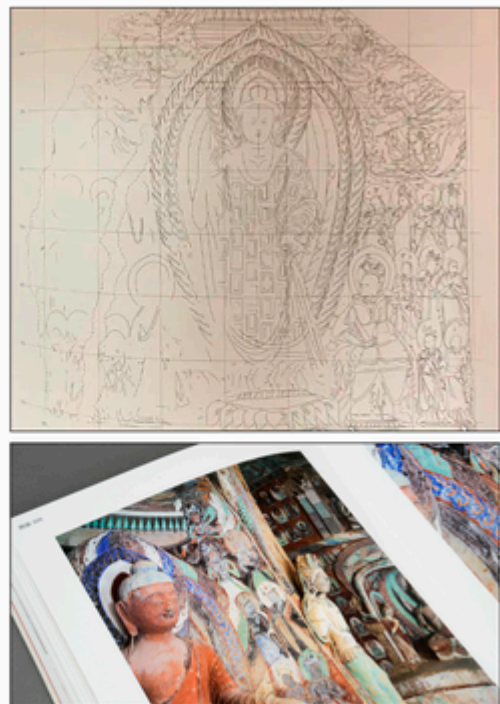
『敦煌石窟全集』は、全100巻に敦煌石窟の全貌を記録することを目指した長期プロジェクトで、建造時期と所在地を基準に、特に典型的な石窟を収録する。本書は2011年に刊行された第1巻(266-275窟)に続く第2巻で、北魏時代に造営された第257窟、第259窟と、五代宋時期に造営された第256窟の全容を、大8開(A3相当)の3分冊に収める。

第257窟は北魏時代の典型的な中心塔柱形石窟で、窟内の「九色鹿本生」壁画によって広く知られる。

第259窟内の「半箇中心柱」は法華経の「多宝塔」を表しており、その北壁龕内に存置された禅定仏像の神秘的な微笑が特に有名である。

第256窟は敦煌石窟末期の仏壇式大窟の中心的存在で、甬道両壁に精巧な供養菩薩絵画を有し、主室の緑地千仏は当時の敦煌様式を代表する壁画である。石窟ごとに一章を当て、石窟の位置や構造、題記・碑刻・保存状況などの関連情報を記す。解説部分に約300枚の図版資料を配するほか、全書で考古測量図約100枚、写真900余枚、全景のデジタルパノラマ図43枚を掲載する。

そのほか、本巻収録石窟に関するスタイン、ペリオ以来の過去の調査隊による調査研究報告や撮影写真、これまでの関連論著・資料目録、炭素14年代測定結果の報告、石窟壁画・彫塑の工芸材料研究など、豊富な資料を附録部に収録する。



ご注文・お問い合わせ